

## 高病原性鳥インフルエンザの発生状況

2017年5月10日現在

### 高病原性鳥インフルエンザ A(H5N6)

#### 世界のトリでの発生状況

(FAO: <http://empres-i.fao.org/eipws3g/> および農林水産省 HP: <http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/> に基づく):

低病原性鳥インフルエンザ A (H5N6) ウイルスは 1975 年以降、広い地域で検出されていたが、高病原性鳥インフルエンザ A (H5N6) ウイルスの家禽での最初の発生は 2014 年であり、中国から報告された。2016 年 1 月から 2017 年 4 月 12 日までの期間に FAO に報告されたトリでのアウトブレイクは、6 か国と 2 つの地域から 166 件 (内訳は、上記 URL 参照) である。哺乳類への感染として、中国 (1) と韓国 (2) でネコへの感染が報告されている。しかし現在のところ、高病原性鳥インフルエンザ A (H5N6) ウイルスはヒトに感受性を持つような変異やタミフル耐性になるような変異は見られず、また、哺乳動物に対して病原性が強くなる性質を持つような変異も見られていない。

(1) Yu, Z. et al. Sci. Rep. 5, 10704; doi: 10.1038/srep10704, 2015

(2) KCDC.

[http://cdc.go.kr/CDC/mobile/notice/CdcKrIntro0201.jsp?menuIds=HOME001-MNU1154-MNU0005-MNU0011&fid=21&q\\_type=&q\\_value=&cid=72511&pageNum=1](http://cdc.go.kr/CDC/mobile/notice/CdcKrIntro0201.jsp?menuIds=HOME001-MNU1154-MNU0005-MNU0011&fid=21&q_type=&q_value=&cid=72511&pageNum=1)

#### 日本のトリでの発生状況

(環境省 HP: [http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird\\_flu/](http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/) および農林水産省 HP: <http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/> に基づく):

2016 年 11 月以降、2017 年 4 月 31 日の期間に報告のあった高病原性インフルエンザ A (H5N6) ウイルス陽性となったトリ等の事例は、家禽においては 9 道県 12 事例、野鳥等については 22 都道府県 218 事例であった (内訳は、上記 URL 参照)。これまでのところヒトに感受性を持つような変異は検出されていない。

#### 世界のヒトでの発生状況:

鳥インフルエンザ A (H5N6) ウイルスでヒトへの感染が報告されている症例は下記の表の通りである。2014 年 5 月に初発例が確認され以後、2017 年 4 月 18 日現在までに計 16 例 (うち死亡 10 例) の報告があり、すべて中国からである。年齢中央値は 40 歳 (11~65 歳)、男性 7 例、女 9 例だった。16 例中 13 例に鳥との接触を認めている。ヒト-ヒト感染の報告はない。

表. 鳥インフルエンザ A (H5N6) ウイルスのヒトへの感染例 n=16, 2014~2017 年 (4 月 18 日現在)

No	報告年月	報告国 (行政区)	年齢	性別	発症日	トリとの接触歴	転帰	情報源*
1	2014 5月	中国 四川省 南充市	49	男	2014	死んだ家禽	死亡	WHO
2	2014 12月	中国 広東省 広州市	58	男	2014/12/4	家禽	重症	WHO
3	2015 2月	中国 雲南省 テチエン・チベット族自治州	44	男	2015/1/27	死んだ野鳥	死亡	WHO
4	2015 7月	中国 雲南省 テチエン・チベット族自治州	37	女	2015/7/6		死亡	WHO
5	2016 1月	中国 広東省 揭陽市	42	男	2015/12/12	生鳥市場	死亡	WHO
6	2016 1月	中国 広東省 肇慶市	40	女	2015/12/22	生鳥市場	重症→死亡*	WHO/Emerging Infectious Diseases 22, 8 August 2016
7	2016 1月	中国 広東省 深圳市	26	女	2015/12/24	家禽の肉を扱った	死亡	WHO
8	2016 1月	中国 広東省 深圳市	25	男	2016/1/1	生鳥市場	死亡	WHO
9	2016 1月	中国 広東省 深圳市	31	女	2016/1/8		重症	WHO
10	2016 3月	中国 広東省 惠州市	40	女	2016/2/20	生鳥市場	重症→死亡*	WHO/Hong Kong Centre for Health Protection
11	2016 5月	中国 湖北省 神農架林区	35	男	2016/4/9	生鳥市場	軽快	WHO
12	2016 5月	中国 湖南省 株洲市	11	女	2016/4/11	家禽	軽快	WHO
13	2016 5月	中国 安徽省 宣城市	65	女	2016/4/24	家禽	重症	WHO
14	2016 7月	中国 湖南省 湘西トゥチャ族ミャオ族自治州	50	男	2016/5/23		重症→死亡*	WHO/Health and Family Planning Commission of Hunan Province
15	2016 11月	中国 湖南省 邵陽市	47	女	2016/11/18	死んだ家禽*	重症→死亡*	WHO/Hunan provincial Center for Disease Control and Prevention
16	2016 12月	中国 広西チワン族自治区	30	女	2016/11/8	死んだ家禽	重症	WHO

\*WHO 本部および WHO 西太平洋地域事務局の情報に加え、他の政府系公式情報源より得られた情報を含む

## 高病原性鳥インフルエンザ A(H5N8)

### 世界のトリでの発生状況

(OIE HP: <http://www.oie.int/animal-health-in-the-world/update-on-avian-influenza/2016/> , FAO HP: [http://www.fao.org/AG/AGINFO/PROGRAMMES/EN/empres/H5N8/situation\\_update.html](http://www.fao.org/AG/AGINFO/PROGRAMMES/EN/empres/H5N8/situation_update.html) および農林水産省 HP: <http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/> に基づく) :

2016 年以降、2017 年 4 月 18 日現在、43 か国 (内訳は、上記 URL 参照) から報告されている。韓国については韓国農林畜産食品部によると 2016 年 11 月から 2017 年 4 月 10 日までに、家禽で 38 事例、野鳥で 13 事例の報告がある。2014 年/2015 年シーズンの高病原性鳥インフルエンザ A(H5N8) ウイルスの解析では、ヒトに感受性を持つような変異は検出されていない。

### 日本のトリでの発生状況

(環境省 HP: [http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird\\_flu/](http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/) に基づく) :

日本では、2014 年にはじめて家禽および野鳥から高病原性鳥インフルエンザ A (H5N8) ウイルスが検出された。2016 年以降は現在のところ、家禽および野鳥のいずれからも高病原性鳥インフルエンザ A (H5N8) ウイルスは検出されていない。

### 世界のヒトでの発生状況 :

現在までのところ、高病原性鳥インフルエンザ A (H5N8) ウイルスのヒトの感染例は報告がない。

## 高病原性鳥インフルエンザ A(H7N9)

### 世界のトリでの発生状況

(FAO HP: [http://www.fao.org/ag/againfo/programmes/en/empres/H7N9/situation\\_update.html](http://www.fao.org/ag/againfo/programmes/en/empres/H7N9/situation_update.html) および <http://empres-i.fao.org/eipws3g/> に基づく) :

高病原性鳥インフルエンザ A (H7N9) ウイルスは 2017 年 1 月に中国で初めて確認され、4 月 5 日までに FAO に報告のあったトリ等の事例は、2 か国から (中国, アメリカ合衆国) であった。中国の事例は、広東省のトリと環境中から、湖南省の大規模農場のトリから検出された。アメリカ合衆国農務省の報告によると、検出されたウイルスは北アメリカの野鳥に由来するものであり、中国で流行している株とは遺伝子学的に異なるものであった。

### 日本のトリでの発生状況 :

2013 年 3 月以降、日本では、家禽および野鳥のいずれからも高病原性および低病原性鳥インフルエンザ A(H7N9)ウイルスは検出されていない。

### 世界のヒトでの発生状況 :

(FAO HP: [http://www.fao.org/ag/againfo/programmes/en/empres/H7N9/situation\\_update.html](http://www.fao.org/ag/againfo/programmes/en/empres/H7N9/situation_update.html) および WHO HP に基づく)

2013 年以降、現在までのところ、高病原性鳥インフルエンザ A(H7N9)ウイルスのヒト感染事例は、3 例 (中国 2 例, 台湾 1 例) 報告されており、いずれの症例も中国広東省在住もしくは広東省へ旅行歴があった。この高病原性ウイルスは家禽に対して高病原性であるが、現時点ではヒトでの病原性や伝播性に対する影響を示唆する科学的根拠は得られていない

([http://www.who.int/influenza/human\\_animal\\_interface/avian\\_influenza/riskassessment\\_AH7N9\\_201702/en/](http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/avian_influenza/riskassessment_AH7N9_201702/en/))。また、これらの高病原性ウイルスによるヒト感染例ではノイラミニダーゼ阻害剤に対し低感受性を示すウイルス遺伝子変異が検出された(<http://www.who.int/csr/don/27-february-2017-ah7n9-china/en/>)が、この抗ウイルス剤耐性は当該症例に対するノイラミニダーゼ阻害剤の投与により誘導された可能性が考えられる

(<http://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-m/flutoppage/2276-flu2013h7n9/a-h7n9-niid/7161-riskassess-170327.html#ref13>)。